

海に臨む交流拡大ゾーンとして島崎公園を活かした形で民間事業者参画による『道の駅のリニューアル』



現状

- アクセスが良い ■ 天橋立 海のロケーション
- 中心市街地にある ■ 芝生広場は市民の憩いの場

課題

- 規模が小さい 気づきにくい ■ 交通量に比べて利用者が少ない
- イメージとサービスとのギャップがある
- 入店しても素通りしている人がある
- 食事を提供しない宿泊施設が増えている

リニューアルに向けたアイデア

- 地魚を買う・食べる場所になると良い ■ 海上交通の活用
- 夜の営業 既存店との共存共栄 ■ インバウンドへの対応
- 食べ歩きニーズへの対応 ■ 芝生広場は残してほしい
- まちなかへの回遊 IT・ソフト面の工夫も
- 海側での飲食スペース ■ ペット連れニーズへの対応
- 地元若者のチャレンジできる場

分析

- コンセプト(軸)を明確にする ■ 複数の事業者から参画意欲がある
- 直売所や飲食施設は少なくとも倍程度の広さに
- 交通量から約3倍の利用者増が期待できる
- 設計・施工・運営に民間のノウハウを入れる

道の駅「海の京都宮津」や島崎公園の芝生広場のある海に臨む交流拡大ゾーンは、中心市街地のにぎわい創出やウォーターフロント開発につながるよう、以下の点も押さえた上で、「**島崎公園を活かした形で民間事業者参画による道の駅のリニューアルを進められたい**」

- ◆ 地元農林水産物のPR・流通拡大や特産品づくりを推進すること
 - ◆ 道の駅の利用者の島崎・浜町ウォーターフロントエリア内や、まちなか等への回遊性を高めること
 - ◆ 海の活用を合わせて考えること ◆ 設計・建設・運営が一体的な方式(※)とすること
- ※DBO方式：施設整備に係る資金を市が調達し、民間事業者が設計・建設、維持管理・運営をまとめて行う、民間の創意工夫が発揮しやすく効率的な方式
- ◆ 周辺施設の利用も踏まえて駐車場機能を強化すること

【民間事業者参画により進める場合のプロセス】

リニューアルオープン

委員会
まとめ

市民周知、
関連事業者等との
意見交換、
民間事業者との
対話

実施方針の
決定

要求水準書
作成

民間公募

設計・
建設

道の駅

今後に向けて...

委員会からのまとめの内容をもとに、市民への周知や農林水産業者・観光事業者をはじめとした関連事業者等との意見交換を行うとともに、市としての課題整理や民間事業者との対話を進めています。

今後も、島崎・浜町ウォーターフロントエリアの活性化に向けた動きを、市民のみなさまと共有しながら進めていきます。

島崎・浜町ウォーターフロントエリアの活性化を進めています!

資料7



本市では、日本三景・天橋立を望む眺望に優れ、アクセスにも恵まれた「島崎・浜町ウォーターフロントエリア」を、今後の市の活性化に向けた重要な拠点と位置づけ、民間事業者と連携しながら活性化に向けた取組を進めています。

このたび、令和6年7月に設置した「島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会」において、5回にわたる意見交換などを踏まえ、「島崎・浜町ウォーターフロントエリアの活性化に向けた考え方」が取りまとめられましたので、その内容をお知らせします。

基本的な考え方

地域住民、自治体(市)、民間事業者それぞれにとって良い形となるよう、海に臨むエリアを「交流拡大」「文化・スポーツ振興」「民間誘致」の3つのゾーンのもと、民間事業者と連携した活性化などを進められたい。

※活性化検討委員会のまとめや、今後に向けての取組状況は、市HPでご覧いただけます。



資産活用係 45-1611

各ゾーンの考え方



海に臨む交流拡大ゾーン

海に臨む文化・
スポーツ振興ゾーン

海に臨む民間誘致
ゾーン

海に臨む文化・スポーツ振興
ゾーンとして公共施設、憩いの
場・交流の場の維持・向上



みやづ歴史の館や島崎公園グラウンド等の公共施設がある海に臨むゾーンは、「公共施設、憩いの場、交流の場としての維持・向上を図られたい」

海に臨む民間誘致ゾーンとして
民間事業者の誘致



休止中の宮津会館や旧図書館施設などの遊休資産がある海に臨むゾーンは、「遊休資産の民間事業者による活用(開発)の可能性を高められたい」